

作物別技術交流集会／かんきつ・枝豆

さらなる技術向上をお願いします

らでいっしゅぼーや(株)農産開発課より

年度ごと、作物ごとのテーマで開催されているらでいっしゅぼーやの「作物別技術交流集会」。農産開発課のスタッフがそれぞれを担当し、品質向上をめざしてより充実度を増しています。8、9月に開催された2つの集会の担当スタッフからレポートをいただきました。

Report

実験圃場をつくりませんか？

かんきつ集会

らでいっしゅぼーや(株)農産開発課
加川幹雄

今年のかんきつ集会は、昨年に引き続き(株)ジャパンバイオファームの小祝政明さんを講師に迎え、「施肥管理」について話し合いました。施肥管理を改善することで、主に「病害抵抗力強化」「隔年結果の防止」「貯蔵力の増加(具体的には返品率の低下)」を図ることが開催の目的です。

Radixの会のご協力で実施した土壌分析では、ほとんどの生産者が、カリ過剰で苦土と微量元素欠乏という結果が出ていました。土の状態を把握し、投入する肥料を調節していく必要があると思います。

「一般的な有機肥料の中には、必要十分な量のミネラルや微量元素が入っていない」「有機肥料は撒いたからすぐに効果が出るわけではない」ということを前提とした施肥管理が今後の課題となります。その為には、土壌分析を有効に活用するとともに、投入している肥料の特性をさらに理解していくことが重要だと思います。

まずは今年の秋肥から少しの面積で結構ですので実験圃場をつくっていただくことをお願いしています。来年の技術交流集会では、その結果(途中経過)をもとに話し合いをする予定です。農産開発課では、今年から温州みかん(晩柑類についても検討中)の糖度検査を実施する予定です。その結果を見ながら「食味の向上」についても話し合っていきたいと考えています。ぜひ、来年もご参加ください。

より高い頂上をめざしましょう

枝豆集会

らでいっしゅぼーや(株)農産開発課
武居 徹

夏のパレットに欠かせない品目の一つ「枝豆」。らでいっしゅぼーやでは7月の枝豆から、8月9月のただ茶豆に10月の毛豆までと、約4カ月にわたり会員さんにお届けしています。今回は9月7、8日に「ただ茶豆」の本場、山形県・庄内地方に23名の生産者が集まり、枝豆技術集会被開催されました。テーマは「栽培と品質の向上」です。

■出荷時の配慮が必要

まずは品質の話から。昨年のもらでいっしゅぼーやのセンターで返品処理にあった原因の多くは、収穫から納品までの温度管理が不十分だったこと。集会では産地からセンターまでの温度変化のグラフが紹介されました。

予冷庫の中の形態と出荷便は同じものですが、産地での予冷の温度が5℃と10℃。箱の中に詰める形式は、一段詰と二段詰。グラフを見ると、出荷途中で20℃弱まで上がるのは両者とも同様でしたが、らでいっしゅぼーやのセンターに到着してからの予冷の効き具合に差がみられ、最終的に3~4℃の温度差が生じました。

やはり豆と豆の密着度が高くなると、温度が暖かくなると思われるので、生産者の中には二段詰めの際に、ダンボールなどで仕切りを作って温度上昇を防ぐ工夫も紹介されましたが、最も大事な点は出荷時に過剰に詰めすぎない配慮が重要であるとの話がありました。

■虫対策、そして品種の話

農薬の話では、主にアブラムシ、カメムシ対策が中心。参加した生産者の中で多く使われていたのが、トウガラシや木

酢など。おきたま興農舎の小泉篤さんからは、「今年、ニームの原材料を購入し自前で抽出してみたが、製品よりは効果が若干落ちた。どうもあのドロドロ感が欠けていた気がするので、来年は改良を加えてみたい」と報告がありました。

また、品種についても話されました。青森の新農業研究会・一戸寿昭さんは在来種の毛豆を栽培しており、「枝豆の品種も細かくあり、その土地にあった品種を栽培していくことが必要ではないか」との提言がありました。らでいっしゅぼーやとしても市場であまりみかけない特長のある品種を扱っていきたくて要望をお伝えしました。

■微量元素の欠乏

二日目はJBF小祝さんの講演。今回も土壌分析を事前に行ないましたが、Radixの会で主催している小祝塾でも話があるように、枝豆でも微量元素の欠乏が見られるとのことでした。

枝豆の食味を上げるために特に大切な要素は、光合成に欠かせないマグネシウムと、根の発育に重要なモリブデン。「土壌分析を見る限りでは、各生産者ともそんなに大きな障害はないと思われるので、微量元素を的確に補充すれば、さらなる食味向上が期待できる」とお話しがありました。

らでいっしゅぼーやでも、今年計測した糖度以外に「おいしさ」を具体的に計る方法を検討中です。品質が安定したあとは、食味の向上。枝豆生産者の視点はより高い頂上をめざしています。

プロフィール

加川 幹雄 らでいっしゅぼーや(株)農産開発課 兼 農産管理課 96年入社。現在熊本、鹿児島などのかんきつ類を栽培する産地を担当。管理課では防除関連を担当する。2001年作物別技術交流集会のかんきつ・トマト・葉物(東日本)を担当した。

武居 徹 らでいっしゅぼーや(株)農産開発課 97年入社。WESTの営業を経て98年7月農産開発へ。西日本の産地を主に担当。今後はお米の主担当として全国各地へ。2001年作物別技術交流集会の枝豆・葉物(西日本)を担当した。